

産・学・官・民の協働による「リビングラボ」

1. 団地・住宅地の概要

今泉台団地（神奈川県鎌倉市）

【種別】：戸建住宅団地

【住戸数】：約 2,000 戸

【入居開始年度】：1964 年～

【交通】：JR 線大船駅 バス 20 分

2. 取組の概要

- ・高齢社会を支える物・サービスづくりに関心のある企業（産）、東京大学（学）、鎌倉市（官）及び鎌倉今泉台の住民（民）の連携により、住民の暮らしを豊かにするための物・サービスを開発・改善する仕組みとして、2017 年に鎌倉リビングラボを設立。
- ・「リビングラボ」とは、企業などと連携し、住民自身が生活を向上させるための新たな物・サービスを開発・改善する取組で、ヨーロッパを中心に広がっており、世界で約 400 ヲ所が活動する。
- ・住民側として参加している NPO 法人が、鎌倉リビングラボにより得た収益を活動資金に充て、地域に貢献している。
- ・「産・学・官・民」の連携によるリビングラボの取組は、住民課題の解決とオープンイノベーションの両者に相乗効果をもたらしている。
- ・鎌倉市は 2018 年に「SDGs 未来都市」に選定され、さらに、リビングラボを含む鎌倉市の取組が先導的な取組として「自治体 SDGs モデル事業」として選定されている。

3. 取組の背景

- ・鎌倉市今泉台地区は高度経済成長期にベッドタウンとして移り住んできた世代が高齢化し、2018 年 6 月時点で住民約 5,000 人のうち約 45%（約 2,250 人）を 65 歳以上が占める状態。
- ・2011～15 年の間に今泉台町内会、横浜国立大学、株式会社 LIXIL、鎌倉市の 4 者で「長寿社会のまちづくりプロジェクト」という共同研究を行い、地域の課題を抽出。
- ・この研究により浮き彫りとなった課題に対し、長期的な取組を行う仕組みが必要であるとの考えから、2015 年に今泉台町内会の役員らが「NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台」を設立。
- ・鎌倉市在住で高齢者の健康や自立を研究している東京大学の秋山弘子特任教授がこの鎌倉今泉台の状況に着目し、鎌倉リビングラボの設立に至った。

4. 特徴

- 大学（東京大学、横浜国立大学）が鎌倉今泉台を研究対象としていることで、調査、課題抽出といった取組の土台となる部分が整理されている。
- NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台は、鎌倉リビングラボのほか、空き家の実態調査（2012年より毎年6月に実施）、空き家・空き地の利活用、今泉台マルシェの開催等幅広くコミュニティ活動を実施している。



空き地を利用した菜園



今泉台マルシェの様子

（出典）NPO法人タウンサポート鎌倉今泉台提供資料

5. 組織体制

鎌倉リビングラボの推進体制・役割とメリット



（出典）東京大学高齢社会総合研究機構 提供資料

6. 取組内容

○鎌倉リビングラボについて

- ・日常のお困り事や暮らししていく上で大切にしている価値観等のニーズ調査を行う。
- ・生活を豊かにし、課題の解決策となるような物・サービスのプロトタイプを開発。
- ・家電、家具、モビリティ、アプリなど様々な物・サービスを住民が活動の場や自宅で実際に試用し、自身の生活に役立つかどうかを確認する。
- ・その後、グループインタビューやワークショップなどの手法により住民の意見を引き出し、その結果をもとに企業は当該物・サービスの改良を繰り返し行う。
- ・この一連のサイクルを繰り返すことで、住民視点で生活に必要な物・サービスを開発する。
- ・大学の研究費や企業の利用料を原資に、参加した住民には謝礼が支払われ、それとは別に NPO 法人に対して事業委託費が支払われている。これにより、参加した住民には仕事としての意識が醸成され、NPO 法人にはコミュニティビジネスとして自負が生まれている。
- ・リビングラボの実施に当たっては、住民の生活に必要な物・サービスが開発される必要があるため、余計なバイアスが生じぬよう企業は匿名で参加することもある。

○NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台の役割

- ・テーマごとに適した人数、性別、年齢層、特性などのリビングラボ参加者を地域のネットワークを活用して募集する。
- ・大学と住民の間に立ち、活動の場の設営や調査票の回収など様々な調整を行う。

○東京大学（一般社団法人高齢社会共創センター）の役割

- ・鎌倉リビングラボ全体の調整を行う。
- ・住民とともに地域の課題を抽出し、これに対する解決策となるような商品・製品を開発する企業・起業家の参画を募る。
- ・様々なバックグラウンドを持つ研究者、実践者から構成される専門家バンクを構築しており、テーマや時機に応じて連携する。
- ・このほか対外的な活動として、リビングラボ研究交流会、シンポジウム、リビングラボネットワーク会議などの企画運営を行っている。

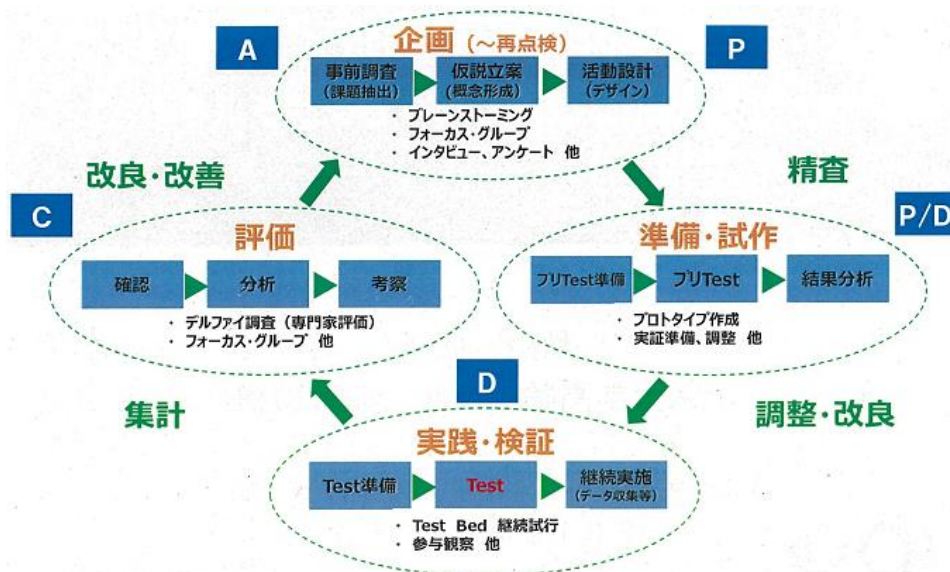


報道発表時の集合写真

(出典) NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台提供資料

【コラム】リビングラボとは？

- 地域の住民とステークホルダーが連携して「企画」、「準備・試作」、「実践・検証」、「評価」の共創サイクルを回し、生活者のニーズに適う、より質の高い成果・解決策を産出する。
- 世界的にはヨーロッパを中心に広がっており、全世界で約 400（2019 年 3 月時点）のリビングラボが展開している。
- 国内では、約 30（2019 年 3 月時点）のリビングラボが活動しており、地区ごとに活動内容や調整・指揮を担う団体が異なる。
- 2019 年時点で協会が存在するわけではないが、全国のリビングラボネットワークは拡がりつつあり、会議等を定期的の実施している。



(出典) 東京大学高齢社会総合研究機構 提供資料